

朝の館内放送

令和6年3月4日

おはようございます、市長の中村健です。

2月22日に日経平均株価が史上最高値を更新し、現在は4万円に近づこうとしています。

株価については、1989年の年末というバブル経済の絶頂期に3万8915円を記録して以降、幾度の山や谷はあったものの、全体的に見れば30年以上に渡って低迷が続いたこととなります。

それは、「失われた30年」という、バブル後の日本経済の状況を示す言葉とも密接にリンクします。

この間、日本経済の低迷を端的に表しているのが国際競争力の低下で、日本の順位は、1989年から1992年まで首位を保っていたものの、1997年に17位と急落したのを機に、以来、一桁位の順位に返り咲くことはありませんでした。

また、世界の国々と比較した人口1人当たりの名目GDPについても、1995年に3位を記録したのをピークに、最近では30位以内にも入れない状況が続いています。

「失われた30年」の原因についての考察はここでは控えますが、株価だけでなく、日本経済そのものが再び浮上していくためには、生産性の向上が不可欠であることは言うまでもありません。

そして、生産性を上げるためには、デジタルトランスフォーメーション、リスキリングと呼ばれる、いわゆる学び直し、長時間労働を前提としない働き方などが求められます。

これらについては、行政機関の職員である私たちにも当てはまることであり、組織としても推進していきますので、皆さん一人ひとりにおかれても、生産性を高めることを意識しながら仕事をしてもらえればありがたく思います。

日本経済の復活を願いつつ、私たちも「市民のために」という使命を背負いながら、今日も一日頑張りましょう。

以上で、朝の館内放送を終わります。